

品格のある生き方 を考える

一坂東眞理子著「女性の品格」PHP新書(2006年)を家庭教育のテキストにしようー

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

(1)夏休みで子どもたちが家庭にいることが多いと思われるので、今回は、家庭教育のお話をいたします。

(2)先日、お客様がいらっしゃったので日帰り温泉にお連れしました。栃木県にはたくさんの温泉があり、ほとんどの施設に日帰り温泉のサービスがあります。私は温泉が好きなので、お客様との用事が済んだ後に時間があるときは、お客様のご希望を聞いてから近くの日帰り温泉にお連れすることが時々あります。皆様、とても喜ばれます。日帰り温泉ですから余りお金もかからず、気楽に行けます。

(3)そのような折り、来年小学校に入学するくらいのお孫さんを何人か連れて来た方々と一緒になりました。子どもたちは、嬉しさの余り興奮して、走り回ったり浴槽の中で泳いだりしていましたが、揚げ句の果てに私の顔の真横で足をバシャバシャし始めました。お孫さんを連れて来た方々が注意して下さると期待していたのですが、何と「あんまり騒ぐと隣の人に怒られるよ」という言葉をかけたただけでした。

私は、それでは子どもたちの教育にならないと思いましたので、『あんまり騒ぐと隣の人に怒られるよ。』と言うのではなく、『ここはプールではないのだから静かに入りなさい、皆さんの迷惑にならないようにね。』と指導するのが、子どもたちを連れてきたあなた方の義務です。しっかり教育して下さい。」とお願いをしました。その後で連れて来た方から指導され、子どもたちも「ハッ」と気付いたらしく、それからは少し静かになって温泉を楽しんでおりました。

(4)夏休みは、子どもたちが家にいる時間が普段よりも長いので、子どもたちに躰(しつけ)を身に付けさせる絶好のチャンスです。孫を温泉に連れて行くなど、普段できない体験を子どもたちに積ませることもできます。そのような機会を十分に活用して、子どもたちに社会のルールを少しずつ教えていくことも大切な「家庭教育」です。「家庭教育」とは、「躰(しつけ)教育」、つまり「美しい立居振舞い」と「敬語表現を含む言葉遣い(ことばづかい)」を内容とします。

2. 「家庭教育」の中心である「躰(しつけ)教育」のテキスト(教科書)に、坂東眞理子著「女性の品格」PHP新書(2006年)を

(1)では、どのようにして「家庭教育」の中心である「躰教育」をすればよいのか。その基本方針は、保護者を中心に各御家庭でお話し合いになることをお奨めします。

その際参考になるのが、2006年10月に出版され、100万部以上売れたと言われる、この4月から昭和女子大学の学長になられた坂東眞理子先生の「女性の品格」(PHP新書)という本です。

(2)社団法人経済同友会の委員会で、いつも凜としていらっしゃる坂東先生の姿をお見かけしたことが何年か前から何度かあります。姿勢を正して、発言する人の方を真正面から真剣に見据え、また、コメントを求められると的確な内容を述べられる姿は印象的でした。つい先日、6月1日に国際連合大学で開催された「女性は格差をなくせるか」というシンポジウムでは、「女性の格差是正」に関する素晴らしいスピーチをなさいました。

その坂東先生が恐らくはやむにやまれぬお気持ちでお書きになったであろう著作が、「女性の品格」です。この本は、「女性」のみならず、「男性」も参考になると考えます。

何をもって「家庭教育」の中心となる「躰教育」の内容としたらよいかを考えている問題意識の高い保護者の皆様やこれから「立派な生き方」をしたいと考える皆様には大いに参考になると考えますので、是非手にとってゆっくりお読みになることをお奨めします。

(3)その内容は、以下の通りです。

はじめに——凜とした女性に

第1章 マナーと品格

- (1) 礼状をこまめに書く
- (2) 約束をきちんと守る
- (3) 型どおりの挨拶ができる
- (4) 相手に喜ばれる物の贈り方
- (5) 手土産を持っていく
- (6) 電話のかけ方
- (7) 断るときほど早く、丁寧(ていねい)に
- (8) パーティーマナー
- (9) 長い人間関係を大切に
- (10) 記念日を大事にする

第2章 品格のある言葉と話し方

- (1) 敬語の使い方
- (2) 品格のある話し方
- (3) ネガティブな言葉を使わない
- (4) 魔法の言葉「ありがとう」
- (5) 大きな声ではっきりと話す
- (6) 乱暴な言葉を使わない

第3章 品格ある装い

- (1) 流行に飛びつかない

- (2) インナーは上質で新しいものを
- (3) 勝負服をもつ
- (4) 秘すれば花
- (5) 姿勢を正しく保つ
- (6) 贅肉(ぜいにく)をつけない
- (7) 髪の手入れ、お化粧の基本

第4章 品格のある暮らし

- (1) よい客になる
- (2) 行きつけのお店をもつ
- (3) 値段でモノを買わない
- (4) 浪費とケチの間で
- (5) けちけちしないで投資マインドを
- (6) 得意料理をもつ
- (7) 花の名前を知っている
- (8) 古典を読む趣味をもつ
- (9) 思い出の品を大事にする
- (10) 無料のものをもらわない

第5章 品格ある人間関係

- (1) もてはやされている人に擦(すり)り寄らない
- (2) 利害関係のない人にも丁寧に接する
- (3) 仲間だけで群れない
- (4) 不遇な人にも礼を尽くす
- (5) 怒りをすぐに顔に出さない
- (6) グラス半分のワイン
- (7) プライバシーを詮索(せんさく)しない
- (8) 後輩や若い人を育てる
- (9) 聞き上手になる
- (10) 家族の愚痴(グチ)を言わない
- (11) 心を込めてほめる
- (12) 友人知人の悪口を言わない
- (13) 感謝はすぐに表す

第6章 品格のある行動

- (1) よいことは隠れてする
- (2) 人の見ていないところで努力する
- (3) 独りのときを美しく過ごす
- (4) 目の前の仕事にふり回されない
- (5) 役不足をいやがらない
- (6) 私生活のゆとり

- (7)頼まれたことは気持ちよくするか、丁寧に断る
- (8)縁の下の力持ちを厭(いと)わない
- (9)時間を守る
- (10)ユーモアを解する

第7章 品格のある生き方

- (1)愛されるより愛する女性になる
- (2)恋はすぐに打ち明けない
- (3)内助の功
- (4)うわべに惑(まど)わされない
- (5)品格ある男性を育てる
- (6)過去にこだわらない
- (7)権利を振り回さない

- (8)ゴールデンルール
 - ①「自分がしてほしいことは人にもしない」というのは品格のある生き方の基本
 - ②自分が相手の立場でこんなことをされたら嫌だなと想像できること
 - ③自分の嫌な経験を人にさせないようにする

- (9)満足度を上げる
- (10)倫理観をもつ

あとがき——強く優しく美しく、そして賢く

3. おわりに

(1)開倫塾では、この坂東先生の本を、先生や事務職員の皆様の生き方のテキスト・教科書として100冊購入し、各校舎や職場で読んで頂いております。

(2)この本に書かれてあることは皆素晴らしいことばかりであると私は考えますが、そうでないと思う方もいらっしゃるかもしれません。大半は大切なことばかりなのに、なかなかできていないことが多いのではないかと思われまますので、たとえ一項目でもよいから不足していると思ったら参考にして頂きたいと、開倫塾のスタッフの皆さんにお願いしています。

(3)なぜ、坂東先生の本が100万部以上も売れているのでしょうか。その理由は、このようなことが大切なのだと認識している方が多いからだと思えます。

もしかしたら、品格のある人と思われている人が、自分の生き方を振り返り反省するためにお読みになっているのかもしれない。

身を整える鏡のような本であると思えます。

以上